

KURUMI LETTER

VOL.15 発行日：2020年1月15日

理事長より

あけましておめでとうございます。

「くるみのおうち」で迎える初めてののお正月となります。昨年は「居場所づくり」に取り組んだ一年となりました。実際に行ってみると場所探し、契約、そしてDIYによるリフォームと、すべてが初めての経験で多くの苦勞を伴いましたが、何とかリフォームを終了することができました。多くのみなさまに応援・ご支援いただきましたこと、この場をお借りしてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

「くるみのおうち」での本格的な事業活動は来年度以降となります。多くのご家族・支援者の方が集える心地の良い居場所に育てていきます。このおうちは築50年と古く、耐震性を強化するための工事費が想定以上にかかりました。それに加えて、様々な事情で家庭に居場所がない青年の宿泊を受け入れることができるよう、老朽化して使用できなかったユニットバスを入れ替えたことにより、資金が枯渇してしまいました。（内装工事はまだ終了していませんが、すでに受け入れは9月からスタートしています）

これまで多くの方のご支援をいただき40万円集めることができましたが、まだ110万円が不足しています。本ニュースレターとともに「寄付チラシ」を同封させていただきました（PDFで読まれている方は以下QRコードのリンク先をご覧ください）。趣旨にご賛同いただける方はぜひ寄付にご協力いただければ幸いです。

これからも、より多くの当事者・家族・支援者、そして地域の方々の笑顔を生み出すため、そしてインクルーシブな地域社会づくりのため、「くるみのおうち」を立ち上げる仲間になってください。

よろしく願い致します。



トピックス



<理事長より>	1
<活動報告>	
・くるみのおうち立ち上げについて	2～3
・9/16 コスギアート・ラ・ファブリカ	3
・9/29 高尾山ハイキング	4
・10/5 くるみーていんぐ（第1回）	5
・11/20 地域で共に暮らすために ～発達障害を学ぶ～	5
・12/3 贈呈式	6
・12/7 カワサキコネクト	6～7
<ご寄附いただいたみなさま>	8

活動報告

くるみのおうち立ち上げについて

悩み抜いて決めたのは、日付付きの築50年の中古住宅でした。前号に書きました通り、探す上での条件が一番多く当てはまったことと、元の自宅から徒歩12分くらいで今までの住環境と大きく変わらない、という事がありました。実はこの「住環境が大きく変わらない」というのが、我が家にはとても大切なポイントでした。長く住み続け、息子の生活ペースがかなり出来上がってしまっている土地から、全くの新天地への移住は大きなリスクがあると感じていました。

たとえば通いなれたスポーツセンターに行く、駅前の本屋さんに立ち寄る。そんな日常生活の何気ないことが、息子の生活に大きな意味を持ちます。スポーツセンターにしても、慣れた道を移動する、受付で療育手帳を見せる、コインロッカーを使う、帰り際にお礼のあいさつをする。一つひとつが長い期間をかけて練習して来たものです。スタッフさんも、最初は息子とどう接したらよいかわからなかったと思いますが、長く通ううちに息子のことをよく見て下さり、必要な時にサポートして下さるようになっていました。もし遠くに引っ越してしまうと、たとえ近くに別のスポーツセンターがあったとしてもそのような努力をまた一から積み上げ直さなければいけません。息子自身の慣れだけでなく、スタッフさんの慣れ、ということも大きいです。さらに息子はこの3月に特別支援学校高等部を卒業、4月から福祉事業所に通い始める、という大きな環境変化があるため、日常生活の基盤を大きく変えることは避けたい、ということがありました。

築50年の古いおうちなので、大がかりなDIYが必要ということも不安材料でしたが、「やりたい!」「手伝うよ」という方が多くいらしゃったことも、この物件に決める後押しとなりました。そして何よりも仲介業者の担当者さんのお人柄が素晴らしく、くるみの活動に興味を持って下さり、ご近所さんへの連絡も率先して行って下さり、スムーズな顔合わせにまで至ることができました。多くの方々が出入りするであろう居場所にはご近所さんのご理解が絶対でしたので、この行動力と心遣いは本当にありがたいものでした。

そんな風がいい流れに乗って決めた物件を「くるみのおうち」と名付けることにしました。集まるメンバーで創り上げる、みんなが自分らしくいられる「くるみのおうち」です。わくわくする気持ちが半分。本当にやっつけられるだろうか?という不安な気持ちが半分。いや、わくわくの方がちょっと大きいかな?という心境でした。

4月の契約後、家を住める状態に整えて7月末には引っ越し、というスケジュールを立てました。引っ越しとともに「くるみのおうち」立ち上げ、そして息子の新生活のサポート。それだけでも大忙しなところへ、NPO法人事務所の移転も同時に行うため、手続きが集中することに。これは会社員生活をしながらではとても立ち行かない!と危機感を覚え、会社を「息子の移行期支援のための介護休業」という形でお休みすることにしました。あまり前例のない形での休業だったようですが、幸い会社の理解は得られ、1か月半会社をお休みしました。その間に息子の通勤ルートの付き添い、物件の購入手続き、引っ越し、そしてDIY……。本当に目が回るような忙しさで休業期間は「あっ」という間に過ぎていきました。

息子は「くるみのおうち」を大変気に入りました。引っ越し前も金曜日になると「今日はこちらのおうちに行く」と自ら泊まりの用意をし、途中で買うお弁当を選ぶのも楽しみの一つになりました。DIYも一通りのことをやりながら「このおうちは自分の居場所」という気持ちが育っていったようでした。「居場所は与えられるものではなく、自分たちで創り上げるもの」であることを実感しました。

そして、いざ生活してみてもう一つ気付いたのは、バスの営業所が近いのはとても便利だということ。これはいい意味で想定外でしたが、川崎へも武蔵小杉へも出掛けるのがとても便利な立地でした。息子の大好きな川崎へは本数も多く出ており、セミナー等でよく利用する武蔵小杉のかわさき市民活動センターへ行くのもプロジェクターや資料などの大荷物であってもバスを使えば全く苦にならないことがわかりました。これなら、くるみの事業活動に来ている子どもも大人たちも一度来たら遊びに来やすいという安心感も出来ました。



2019年9月16日 コスギアート・ラ・ファブリカ

(ご参加のお母さまより)

くるみのプログラミング講座を毎回とても楽しんで参加している小学校2年生の息子が、人生初のイベントのお手伝いをさせていただきました。「人にわかりやすく何かを伝える」事は、息子にとって、とても苦手で難しいことです。気持ちが先に立ち、つたない説明でも、プログラミング体験を楽しみながら温かく息子の説明を聞いて下さるお客様。また、それを温かく見守って下さるくるみの皆様。本当にとても貴重な体験となりました。また、お客様の小さいお子さん達が、自分の書いた絵が動くのをワクワクしながら見る目はとても力強く、こちらが何か力を貰えるような感覚で、私自身、普段味わえない素敵な時間となりました。この場をお借りして沢山の感謝をご来場の皆様、くるみの皆様にお伝えしたいです。本当にありがとうございました。(by もとママ)



「武蔵小杉ブログ」で昨日のコスギアート・ラ・ファブリカの記事がアップされ、最初にくるみのデジタルアート工房をご紹介いただきました。

なお住所変更に伴い7/22より法人拠点が幸区→中原区に変わっています。

<http://musashikosugi.blog.shinobi.jp/Entry/4695/>

武蔵小杉ブログのQRコードです。→





(ご参加のお母さまより)

「たかおさん」

気持ちよい秋の空の下「みんなで楽しく高尾山ハイキング」に息子二人と参加させて頂きました。

下の息子は5年生、LDと不安障害があり、不登校も3年目になりました。くるみさんの活動は

「ゆるく 楽しく」をモットーにされています。「このムードなら、息子も居られちゃうかも!？」と、イベントに参加させてもらう様になりました。

高尾山へは、前回のお話の時から行ってみたいな、と思っていました。ただ、息子を外に連れ出す事はとても難しく、まず大勢の人や初めての人と過ごす事にとっても不安が高い為、2ヶ月前位からちびちびと誘い始めました。あらゆる方面からアプローチした結果、カレンダーの予定に書いた「たかおさん」の文字に「たかおさん、誰!？」と親子で盛り上がり、一気に気持ちが参加へと傾きました(笑)

当日は、皆さんの日頃の行いのおかげでとてもいいお天気。

ロープウェイで上がるから、と思って甘くみていましたが、中々の急坂に苦戦しながら登りました。

くるみさんの活動らしく、自分達のペースで登ればいいこと、要所要所で現れるお茶屋さんの美味しい食べ物、男坂と女坂等で競争したり、神社や石像をお参りしたりと飽きの来ないコース。こんなプログラムのおかげで、息子も兄と共にとても楽しく登り切りました。お弁当を用意しなくて良い所も、母に優しくて本当に助かります。頂上で食べたお蕎麦も美味しく、下山してからのご褒美温泉や参加者さんとのおしゃべりも堪能でき、私自身にもとても嬉しい休日になりました。

普段家に籠っている事の多い息子には、運動の機会をなかなか持たせてあげられません。

高尾山を登りきれた事は、息子にとっても自信となった様です。親の力だけでは連れ出せ無い世界にくるみさんはいつも連れて行ってくれます。またぜひ色々なイベントに参加させて頂きたいです。

企画、下見と細やかな配慮を頂きながらのご連絡を下さるくるみの皆さんには、いつも感謝の気持ちでいっぱいです。今度とも、どうぞよろしく願いいたします。(byあんみわ)

2019年10月5日 くるみーていんぐ(第1回)

10月に入り、涼しくなってきたと思いきや、一転。32℃の真夏日となったこの日、第一回「くるみーていんぐ」を「くるみのおうち」で開催しました。

これまで6年間、くるみは川崎市で自閉症支援の事業活動を行ってきました。

具体的な事業としては、

- ① 親子の居場所づくり事業 (お弁当づくり、キャンプ、プログラミング体験講座など)
- ② セミナー事業 (おこづかいセミナー、思春期セミナーなど)
- ③ 普及啓発事業 (映画上映会や発達障害に関する学校教員/NPO職員向け講座など)

ありがたいことに事業展開は順調で、イベント回数は60回以上、参加人数は延べ2,000を超え、多くの当事者・家族、支援者の笑顔を生み出してきました。しかし、NPOとしての運営のほとんどを代表が担ってきたため、事業拡大に伴いアップアップの状態に。



今後の活動をさらに発展させていくため、①企画運営をチームで行う ②認定を取得して事業活動に必要な寄付を集める

③新拠点を構えて社会的インパクトを拡大する の3つの目標に取り組んでいるところです。この「くるみーていんぐ」は、これらを本格的に進めるための、記念すべき第一回目のミーティングでした。大人だけでなく、青年スタッフ3名と小学生2名、幼稚園児1名含む、計13名が参加。

お昼ご飯を食べ、お子さんたちがビーズ遊びをしている間に、大人たちは企画運営のミーティング。

くるみの現状をありのままに共有し、今後どうしていくか？どうしていきたいか？そのために何ができそうか？そんなことをコアメンバーで話し合う、とても有意義な打ち合わせになりました。このような打ち合わせができるようになったことが本当にありがたく、コアメンバーお一人おひとりのご縁に感謝するばかりです。今後、この場を通して事業活動を発展させていきたいと思えます。(太田)

2019年11月20日 地域で共に暮らすために ～発達障害を学ぶ～

11月20日、川崎市教育委員会が主催の連続講座「地域でともに暮らすために ～発達障がいを学ぶ～」の第三回目に講師として参加しました。テーマは「発達障害×思春期」。まず、日々関わりのある思春期・青年期の若者たち4人との体験談をお話。その後、発達障害のある人の思春期に起こりえることをざっと紹介した上で、具体的な事例をもとにしたグループワーク。ワークはとても活発かつ好評で、あっという間の二時間になりました。彼らの悩みや日々の困りごとに、地域の大人としてどう寄り添い、関わっていくべきか？わたしたちも日々手探りの状態です。それでも、彼らなりの自立を願いつつ、応援し続けること。「困ったときには頼っていいんだよ」、という声かけがあたりまえにされる、あたたかな地域の居場所が増えてほしいと願うばかりです。(太田)

【参加者の声】

- ・体験談がとてもよかった。お話に出てきた青年たちは、くるみと関わりを持つことができ本当に良かったと感じた。
- ・「字を読むと頭が痛くなる」というのはつらいですね。耳が不自由な方には字幕スーパーがあればいいのだが、逆につらくなる人もいることに驚いた。
- ・性教育については、恥ずかしいからいけない、というのではなく、ルールを教えることの重要性がわかった。
- ・障害がある／ない以前に、「その人」として存在していることを思いながら接していきます。



2019年12月3日 かながわ生き生き市民基金・助成金贈呈式



居場所づくりで申請していた助成金の贈呈式に参加して参りました。

ありがたい事に日々の活動の努力が認められ、満額の100万円を助成していただくことができました。満額の助成は財団設立以来初めてのことだそうです。

かながわ生き生き市民基金さま、生活クラブ会員の皆さま、本当にありがとうございます。

交流会でも多くの方とお話し、応援のお言葉をたくさんいただきました。

これからますますがんばっていきます！

2019年12月7日 カワサキコネクト

12月7日。川崎市主催による「カワサキコネクト」にテーマオーナーとして太田自身のストーリーを語る機会をいただきました。場所は新城にあるパサールベースという多目的レンタルスペースです。中庭に面したスペースは元は駐車場だったそうです。確かに足元を見れば駐車場だったことがわかるラインがあります。自身のストーリーを公の場で話すのは初めての機会。閉塞的な会議室よりも話しやすい場所にしたいと市民文化局コミュニティ推進部の職員さんと下見をした上で決定をした場所でした。

当日はみぞれになるかも？と数日前から言われていた寒波の日でした。会場入りするとコミュニティ推進部の皆さまが既に会場を整えてくださっており、話しやすい空間が出来上がっていました。

今回の企画をしてくださいましたグラフィック・ファシリテーターの千葉 晋也様とファンドレイジング・アドバイザーの徳永 洋子様との最終確認を済ませる頃には雨の中を参加申し込みをしてくださった方が続々とご来場。それに合わせて太田の気合いもどんどん高まっているのが感じられました。

持ち時間は50分。なぜNPOを立ち上げる事になったかという「根っこ」の部分とこれからの居場所作り、広げていきたい活動についての思いを「青空に向けて大きく育った幹や枝葉」に例えた二部構成にしました。

「根っこ」の部分は会場にいらしていた皆さまにとってもショッキングな報告になったと思われます。太田もこの部分を書き起こすのに封印しかけた思いを紐解かねばならず、かなり体力・気力を消耗して資料を作りました。

後半のこれからの展望は自身と息子の体験がベースになっておりますのはもちろんですが、くるみに関わって来ている青年達の苦悩、高齢者や障害者を取り巻く環境とそれによる孤立などの社会の問題点を踏まえ、くるみが出来ることと変えていきたい事を語らせていただきました。

太田の夢は「世界に通用するビジネスマンになること」から「くるみを世界に通用するNPOに育て、寛容な社会を作ること」へ大きくステップアップしています。

今現在完成に向けて仕上げのDIYを進めている「くるみのおうち」の動画もご覧いただき、早朝より太田自らが焼いてきた「壺焼きいも」をみなさまへ振る舞わせていただきました。暖かいおもいを食べていただきたくて工夫してお持ちしておりましたので、その暖かさに感動される声も上がっておりました。

会場にいらしてくださった方の多くは太田の思いを聞いて共感したり、応援の気持ちを抱いてくださったったりした実感がありました。

休憩後は「くるみのおうち」でも大変重要となっている「寄付集め」についてファンドレイジング・ラボの徳永様が丁寧に教えてくださいました。「おもい、食べながら聞いてくださいね」という、寛容なお人柄でいらっしゃいました。グループワークで5枚の書き込み型シートを使うのですが、最終的にそれを合わせて読むと、端的でありながらとても伝わりやすい団体紹介文が出来上がっており、驚かされました。

グラフィック・ファシリテーターの千葉様は壁一面に貼られた真っ白な模造紙に太田と徳永様の話をイラストを使いながら要点をまとめてくださっていたのですが、その完成度の高さに皆さん釘付けとなっていました。最後にご自身で描かれたイラストを使い全体のまとめをしてくださるのですが、太田の心情までもそこに写してくださったかのように、見事に表現してくださっておりました。

お二人の素晴らしいファシリテートにより太田のストーリーを理想的な形で皆さまにお伝えすることができた、記念すべき日となりました。

ご参加いただきましたみなさま、そしてくるみのおうちの壁抜き体験から寄り添ってくださったコミュニティ推進部の山根様、水溜様をはじめとした市職員の皆さまに心より感謝申し上げます。本当に、ありがとうございました。(byスタッフN)

